2023.8.31 みなべ愛之園こども園　発達支援ルーム

だよりくるみ Vol.16

数概念（かずがいねん）の理解に必要な力

こどもたちは、日頃いろいろな遊びや経験を通して、
言語や運動の発達とともに、数概念（かずがいねん）の理解の基礎となる力を育んでいます。

●両手に物を持って見比べる。

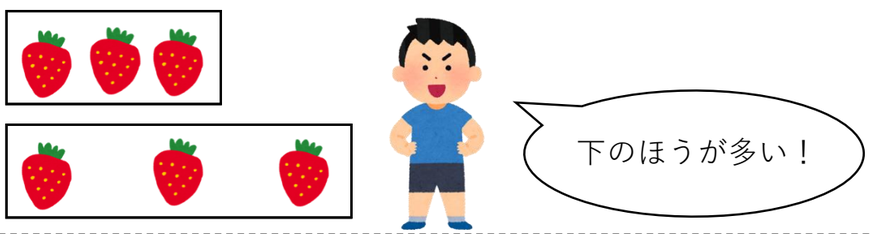
こどもたちは9ヶ月ごろから、両手に持ったものをくっつける、離す、よく見るなどの動きをするようになってきます。この動きが今後、「大きい」「小さい」をはじめとする概念理解につながっていきます。
（例）両手にもった積み木をぶつけて遊ぶなど。

●感覚的な量の比較ができるようになってくる。

「どっちがいい？」と尋ねられたものを見比べて選択を行うことができるようになります。
１歳半ごろになると、二つのものを提示されて「どっちがいい？」と尋ねられたことについて見比べて選択を行えるようになり、感覚的な量の比較ができるようになってきます。
（例）大きいお菓子と小さいお菓子を並べて提示されて、大きい方を取る。

●言葉を用いた量の比較ができるようになる。

２歳ごろになると、対概念（ついがいねん）が生まれ始め、「大きい」「小さい」などの言葉を用いてものを比べることができるようになります。
まだ数を数える力を持たない子供にとって、見た目の大きさは量を確認するために大きな役割を果たしています。この力が、後の数理解（かずりかい）の基盤となる大切な力になります。



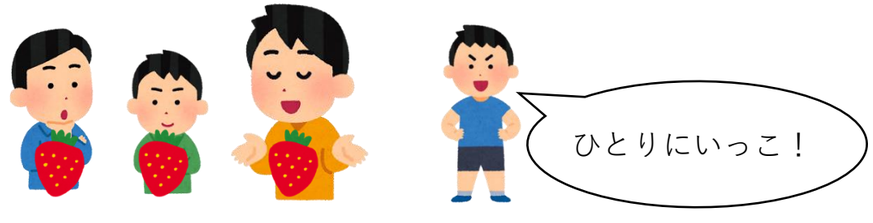
〈参考文献〉
丸山美和子 ．教科学習のレディネスと就学期の発達課題に関する一考察．社会学部論集 ．1999 年 ，vol.32 ，p.195-208
澳塩 渚 ．「数える」ことから算数の基礎が始まる．発達教育 ．2023 年 ，vol.42 ， p.28-29

●「集合づくり」ができるようになってくる。

物を見る力の伸びてきた子どもは、大きさや色、形など、特徴に気がつくようになっていきます。
そうすると、同じ種類や同じ大きさなど一定の要素を基準として分けられるようになります。

●「一対一（いちたいいち） 対応（たいおう）」ができるようになってくる。

こどもたちは遊びやお手伝いの中で、一人に一つ物を配るなどの経験を通して、この力を培っていきます。
正しく数を数えるためのいちばん基礎的な力です。



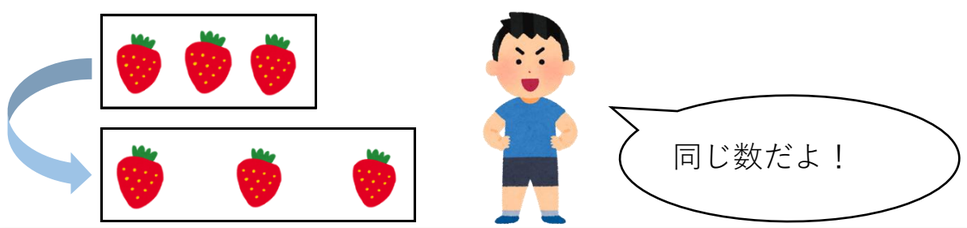
●系列化（けいれつか）の思考ができるようになってくる。

いろいろな要素を持っているものに対し、一つの要素に着目して物事を整理していく力のことです。
時間概念、順序数（じゅんじょすう）を理解するための土台となる力です。

（例）年齢順、背の順にならべるなど

●保存の概念が確立していく。

分離量（ぶんりりょう）の保存の概念は5歳半以降から７歳頃に確立していきます。
保存の概念とは、例えばイチゴの数を数えさせたあとにそのイチゴの間隔を空けて、状態を変えてみせても、数が変わらないことがわかる力のことです。



こどもは遊びを通していろいろな経験をする中で、数概念の理解に必要となる力を育んでいます。
なかなか数が身につかない、数に興味を持たないお子さんを前にした時には、
数そのものについて教え込むのではなく、まずはその子が遊びの中でどのように遊んでいるか、
どの程度の操作までわかっているかを観察することが大切であると思います。